ブティックミステリイ

演出家・鴨下信一

還ってきたあの作家

国際謀略小説の巨匠ロバート・ラドラムといえば、ミスター・ベストセラーで、一作品のアドバンスが五億円だったという。

惜しいことに去年の春急死して、もうあの『暗殺者』のような、読み出したら必ず徹夜になる新作は読めないのかと思っていた。ところが、奇蹟のように遺作があることがわかった。そしてこれが奇蹟のようにおもしろい。

『シグマ最終指令』は上下二冊一〇〇〇ページある大冊で、その最初の一〇ページめで主人公が一五年ぶりに大学時代の親友に出会い「よう、久しぶりだな」と手を振った途端、旧友のトレンチコートの内側から〝サイレンサーのついた銃身が、まっすぐこちらに向けられている〟というのだから、たまらない。そしてあとの九九〇ページは例によって複雑怪奇な陰謀（プロット）と見せ場の連続となる。

考えてみるとラドラムやマイケル・バー＝ゾーハーの国際陰謀ものを荒唐無稽と笑えない世の中に私たちは生きているのだ。

今回はもう一冊〝還（かえ）ってきたミステリイ〟がある。

一〇年ほど前『グール』という、化け物のようなミステリイが出た。

オカルティックな超常怪奇のホラー趣味と、論理の遊びの（ということは論理としては成立するが、必ずしも世間一般にいう合理性ではない）パズラー興味が合体し、さらにマニアックな衒学（ペダントリー）が横溢する。ディクスン・カーの異形の後継者と評判になった（ぼくは小栗虫太郎を思い出した）。

カーにないのはその異常に精密で残虐な拷問殺人の描写で、この点では最近ブレイクしたジェフリー・ディーヴァーのリンカーン・ライム物の先駆者だ。

作家の名はマイケル・スレイド、三作品ほどが出版され、その後パッタリと音沙汰がなかった。

その復活が『髑髏島（どくろとう）の惨劇』で、綾辻行人や京極夏彦のファンならばきっと狂喜乱舞するだろう。

今は現実の世の中も悪夢（ナイトメイヤー）のようだが、ミステリイの悪夢のほうは愛読者は歓迎である。

ラドラムは四二歳で処女作を書くまで俳優だったが、このスレイドは複数のカナダ人弁護士とその妻や友人の合作らしい。しかも組合せが始終変わっているとのこと、こんな例も珍しいが、次の『悪魔の眼』の作者の前身はグラフィックデザイナーだという。

この本はMIRA文庫という、あのハーレクインが出し始めたミステリイシリーズの一周年記念出版だが、新しいミステリイ的発明とかユニークな個性とかは期待しないほうがいい。

しかしこのごくフツーに書かれた連続（シリアル）キラーものは、平凡（といっても非常によく考えてある）であるがゆえに、妙に怖しかった。

それはたぶんあの、ライフル連続射殺魔に揺れた、米国のごく一般人の気分に近い感情で読んだからだろうと思う。

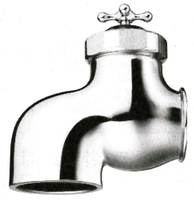
◆『シグマ最終指令』●ロバート・ラドラム著、山本光伸訳　新潮文庫　上705円、下781円
◆『髑髏島の惨劇』●マイケル・スレイド著、夏来健次訳 文春文庫 1048円
◆『悪魔の眼』●アレックス・カーヴァ著、新井ひろみ訳 MIRA文庫 848円

関電工
KANDENKO

建物内の
ブロードバンド化。
きちんと見極めれば、
「コロンブスLAN」。

ADSL
1.5Mbps～8Mbps / 電話回線使用

コロンブスLAN
10Mbps～42Mbps / TV回線使用



FTTH
10Mbps～100Mbps / 光ファイバー回線使用

マンションや学校、病院、ホテルなど。
建物内で、手軽に高性能の
ブロードバンドを実現する方法があります。

速い	最大42Mbps（下り）。ケタ違いの高速伝送。※256QAM使用時
簡単	面倒な配線工事は不要。驚くほど短工期。
安い	圧倒的ローコスト。建物内をまとめてブロードバンド化。

関電工の コロンブスLAN

○資料等のお問い合わせ / Tel.03-4431-3921 ネットワークソリューション本部
（受付時間9:00～17:00 月～金）○「コロンブスLAN」に関する詳しい情報 /
www.kandenko.co.jp 〒108-8533 東京都港区芝浦4-8-33 株式会社 関電工

井狩春男の これは売れる！

美しい日本語の詞華集であるならば、手にしたときにズシリと重い、キレイな函に入った本で読みたい。

何度も繰り返し読めて、そのたびに味の深さを思い知らされる本は、上品な用紙と、美しい装幀によるものでなければいけないだろう。パソコン画面などで、読めればいい、というものではない。それは、じつにオイシイ料理を、鍋から直接食するのと似ている。料理のうまさにふさわしい器が、絶対に必要である。

『折々のうた　三六五日』（岩波書店）は、「現代人の心に響く詩歌の宝庫『折々のうた』から、三六五日それぞれのうたを、著者自ら選び抜いた」愛蔵版だ。

「折々のうた」は、すでにロングセラーになっている。新しい読者が増え続けている。未読であれば、この愛蔵版をおススメしたい。

実績があって、売れるのがわかっている本を、さらに拡売するには、情報だ。とりあえず、大きな広告が有効。90ポイント。

★本を出すタイミングと、ビジネスチャンスは同じである。

『拉致救出運動の2000日』（草思社）は、まさに今、日本全国が拉致問題に注目している渦のなかで出版されることで、すでに売れるのが約束されているといえる。

「何度となくおこなった陳情にも動かぬ政府、外務省。拉致の存在を否定する朝鮮総聯、政党やマスメディア、学者。それでも家族はあきらめることなく娘や息子、きょうだいの救出を訴えつづけ、ついには北朝鮮に拉致を認めさせた。『家族会』とこれを支えた『救う会』の五年間におよぶ活動の全記録」

二〇〇二年九月一七日まで書かれていることが、さらに「身近」を満足している。85ポイント。

★肺ガンで、余命一ヵ月。冗談じゃない！　天才ヤスケンが死んでたまるか！

病院などへは入らず、最期まで自宅で仕事をする、とか。わが師の生きざまに、あこがれてしまう。

「本が出るのと、オレが死ぬのとどっちが先か」と、天才ヤスケンは、電話の向こうで明るく笑っていた。

一一月に三冊出るが、書名がスバラシイのが、『ハラに染みるぜ！　天才ジャズ本』（春風社）。

「心震える音楽に出会いたい！　ヤスケン、聴きまくりヨガリまくり怒鳴りまくる。感動すれば褒めちぎり、つまらなければ罵倒の嵐。寺島靖国さんお墨付き、怒濤の五〇〇ページノンストップ超絶激烈音楽エッセイ」

CDジャケットの写真が、たくさん入る。最新ジャズカタログとしても読める。表紙がスゴイ。しりあがり寿さんだ。

五〇〇ページは、「ステレオ」の乱聴日記、今は亡き「FMfan」「MJ」「オーディオ・アクセサリー」「オーディオ・ベーシック」などに連載した二年分の原稿で埋まっている。

ジャズ、オーディオのほか、現代曲の話も入っているから、音楽好きに愛読される。80ポイント。

★新しい売れ筋は、法律。『行列のできる弁護士　正義の判決』（小学館）は、「行列のできる」と冠することで、80ポイント。

★『江戸でピアノを』（未知谷）。この書名だけで、たいがいの人は読みたくなるだろう。

なんてイイタイトルだ！

「江戸時代・徳川一五代将軍とヨーロッパの作曲家を重ねてみる」という発想の時点で、この本が売れることが約束された。

「バッハは第五代綱吉、モーツァルトは第九代家重の時代にあたります。将軍と作曲家のプロフィール、そしてさまざまなエピソードは、江戸の街を彷彿とさせ、フレスコバルディからプラームスまで、CDに収められた一五曲のピアノ作品は、歴史の姿を浮き彫りにしてくれ」る。

読者は、センスのいいシャレが大好きなのだ。75ポイント。

『折々のうた　三六五日 ―日本短詩型詞華集』 大岡　信 岩波書店　本体価格 2600円　12月10日発売予定	90	Point
『拉致救出運動の2000日 ―1997年2月7日～2002年9月17日』 荒木和博＋「救う会」全国協議会 草思社　本体予価 2000円　11月下旬発売予定	85	Point
『ハラに染みるぜ！ 天才ジャズ本』 安原　顯 春風社　本体予価 2800円　11月下旬発売予定	80	Point
『行列のできる弁護士　正義の判決』 丸山和也 小学館　本体予価 1400円　11月26日発売予定	80	Point
『江戸でピアノを ―バロックの家康からロマン派の慶喜まで』 岳本基治、山李布枝（CDピアノ演奏） 未知谷　本体価格 2800円　11月下旬発売予定	75	Point

新刊フラッシュ

『〝会社に行きたくない人〟悩み相談室』
ジェレミー・ブルモア／長島水際 訳
朝日新聞社　本体価格一二〇〇円
つまらない上司と変わらない組織に直面すると、ついつい出社拒否症に陥りがちだ。これはそんな人に勧めたい「選択」の書。サラリーマンになったときから生じる八三の悩みに答えるのは広告代理店のベテラン。

『英会話　ちょっとした言い方　表現辞典』
ジョン・プロヴォほか／菅原千津 訳
東京堂出版　本体価格二〇〇〇円
本当に会話で役立つのは、教科書には載っていないちょっとした慣用句だ。「お手上げだ」「イヤとはいわせない」「ナイショにしておくわ」「早い者勝ち」がスラッと出てこなかったら、まずは本書を読み倒そう。

『経営者の7つの大罪』
レネ・ティッセンほか／有賀裕子 訳
角川書店　本体価格一五〇〇円
最大の罪は強欲だ。聖書に倣い、経営者の七つの大罪を暴く。残りの六つは、ビジネスシーンで見受けられる敵意・怠慢・対抗心・欲求・妬み・高慢だという。経営者の行動に警鐘を鳴らす書。

『未来なんか見えない』 佐々木央
共同通信社　本体価格一四〇〇円
自傷行為。カミソリを腕に当てる少女が増えているという。一方で、他者への暴力に走る少年も。被害者も加害者も傷だらけになっている。共同通信の記者である著者は、専門家のコメントではなく、少年少女の言葉を拾い、その思いを伝える。

『ブランド広告』 内田　東
光文社新書　本体価格七〇〇円
タイに行ったとき「PANASONY」というブランド（？）に遭遇して驚いた。冒頭、口絵にコカ・コーラやバドワイザーもどきの飲料の写真が提示される。ブランドがいかに人の心に染み込むか、そのプロセスを叙述する異色のブランド論。